

《2024年12月（通算338回） 限定サロン報告》

2024 忘年会 兼 お宝映像上映会

1974FIFA ワールドカップ 1次リーグ

オランダ vs ウルグアイ

- 【日時】2024年12月21日（土）18:30～21:30 ごろ中締め（その場で2次会。～22:15 ごろ）
【会場】フットボール x ザンギ・バル「ブラ セリエ BRAS SERIE」
【テーマ】2024 忘年会兼お宝映像上映会：1974年のオランダ
ー1974 FIFA ワールドカップ 1次リーグ オランダ vs ウルグアイ
【参加者9名】◎はNPO会員、○は会員外のファミリー、無印はファミリー外
○奥山純一、○小松章一、○鈴木崇正、◎茅野栄一、◎中塚義実、○守屋佐栄、◎守屋俊秀、
○吉原尊男、森田真陽
【遅れて参加】◎小池靖、◎関秀忠
【お宝映像】1974FIFA ワールドカップ・西ドイツ大会 1次リーグ オランダ vs ウルグアイ

<目次>

- I. 「お宝映像」選定の経緯
- II. 当日の様子
 - 1. 大まかな流れ
 - 2. 「お宝映像」について
- III. 参加者からのコメント（投稿順）

【キーワード】

1974FIFA ワールドカップ、西ドイツ大会、オランダ、トータルフットボール、オフサイドトラップ、プレッシング、ローテーション、ヨーロッパ対南米、クライフ、ミケルス、ワールドカップ初戦、

I. 「お宝映像」選定の経緯（サロンファミリーへの中塚配信メールより）

◆本企画の発端

2024.10.23.（中塚義実）

11月23日の次は、「師走」の忘年会シーズンです。

サロン2002では不定期に、「お宝映像上映会」を忘年会と合わせて開催しています。過去の資料を見ても、なかなかマニアックなところを取り上げているのがわかります。直近はラグビーを取り上げることが多かったようです（その前は全部サッカー）。

今年もそろそろ「日程」と「お宝」を調整したいと思います。場所は、昨年も使わせていただいた、サロンファミリーの徳田仁さんのお店「ブラ セリエ」を想定しています（開催日次第ですが…）。

日程とお宝映像について、「この日がありがたい」や「こんな映像があるよ」など、希望や情報提供を、MLへの投稿または中塚へのダイレクトメールでお願いします。

以下は、これまでの「お宝映像上映会」です（このほか、皆でLIVE観戦したのもありますね）。

なかなかの「お宝映像」ですね。けどまだまだありますよ…

- 2023年12月9日(土) ブラセリエ【ラグビー】
1983年10月22日の「ウェールズ vs 日本」@カーディフ
- 2019年8月23日(金) ダイニング翼【ラグビー】2015ラグビーW杯 伝説の「日本 vs 南アフリカ」
- 2018年12月21日(金) ティア・スサーナ 1970年W杯(メキシコ) 「ブラジル vs ペルー」
- 2017年7月24日(月) フットボールサロン4-4-2 W杯予選
「ドーハの悲劇」と「ジョホールバルの歓喜」
- 2014年12月28日(日) フットボールサロン4-4-2 1972欧州選手権決勝「西ドイツ対ソ連」
- 2013年12月28日(土) フットボールラウンジ4-4-2 ペレのドキュメンタリー&
1982W杯(スペイン)2次リーグ「ブラジル vs アルゼンチン」
- 2012年12月15日(土) ティア・スサーナ 1966W杯(イングランド)「北朝鮮 vs イタリア」
- 2011年12月17日(土) いなば 映画「奇蹟のイレブン (THE GAME OF THEIR LIVES)」&
W杯アジア3次予選「北朝鮮 vs 日本」ツアー報告(徳田仁)
- 2010年12月17日(金) マーシャルアーツ 1960年5月欧州チャンピオンズカップ決勝
「レアル・マドリード7-3アイントラハト・フランクフルト」&
お宝情報「泣く子も黙る南米旅行」(奥山純一)
- 2009年12月19日(土) いなば 1973年3月7日 欧州チャンピオンズカップ準々決勝1st Leg
「アヤックス・アムステルダム4-0バイエルン・ミュンヘン」
- 2008年12月20日(土) いなば 1953年11月25日 際親善試合「イングランド3-6ハンガリー」&
1972年4月29日 欧州選手権準決勝「イングランド1-3西ドイツ」
- 2008年10月19日 FIFAフットサルW杯決勝「ブラジル2-2(PK4-3)スペイン」
- 2007年12月15日(土) いなば 公開シンポ「サッカー観戦を楽しもう！ースタジアム編」の懇親会
2006年以前は月例会後の懇親会を「忘年会」として行っていたようです。参考まで。

◆日時・会場とメインテーマ決定

2024.11.15. (中塚義実)

今年も残すところ1か月半。公開シンポジウムの次は、サロン2002恒例の「忘年会兼お宝映像上映会」です。コロナ禍で「忘年会」(などの飲み会)の習慣が失われた方が多いかもしれませんが、サロンではやりますよ！

(中略)お宝映像は「1974年のオランダ」です。当時のサッカー界の常識を覆したセンセーショナルなフットボールは、いまにつながる画期的なものでした。クライフはもちろん、全選手が高いボールスキルと身体能力を持ち、チームとして「新しいこと」に取り組むすがたは、いまだからこそみるべき価値があるかもしれません。

どの試合を取り上げるかはお任せください。片付けが全く追いつかない体育教官室には、1974年のオランダの1次リーグ全試合(vsウルグアイ、vsスウェーデン、vsブルガリア)、2次リーグの東ドイツ戦を除く2試合(vsアルゼンチン、vsブラジル)、そして西ドイツとの決勝戦の映像があります。ただし決勝以外はVHSなので何とかしておきます。VHSより新しい方式で「1974年のオランダ」の映像をお持ちの方はご連絡ください。(以下略)

◆リマインド

2024.12.10. (中塚義実)

(前略)今年も残すところ20日余りとなりました。恒例の「忘年会兼お宝映像上映会」の続報です。

お宝映像は「1974年のオランダ」であることをお伝えしました。私の手許にはVHSの“お宝”がいくつもあり、どれにしようか迷うところですが、あえて1次リーグの初戦、オランダvsウルグアイをみ

ることにします。いま徳田さんに、VHSをmp4に変換してもらっているところです。

アヤックスやフェイエノールトから選ばれたタレントが、ミケルス監督の掲げる“新しい戦術”に挑戦する最初のゲームです。ずいぶん前に見たときは「ああ、こうやって“新しい戦術”を試しとったんや」と思うとともに、南米の古豪ウルグアイの選手たちが「なんじゃこりゃ」と戸惑う様子が興味深いと感じたものでした。グローバルとはほど遠い時代のできごとです。改めてこのゲームをみるのが楽しみです。

19時ごろにキックオフする予定ですが、その前に賀川浩さんからの「最後のメッセージ」を流します。できるだけ定刻の18:30にお集まりください。

いまからでも参加申し込み可能ですが、12月18日には確定した人数をお店に伝えます。(以下略)

II. 当日の様子

1. 大まかな流れ

18:15 ごろ 中塚がブラセリエに到着。すでに数名が店内におり、徳田仁さん(ブラセリエのオーナー。サロンファミリー)の配慮で1974西ドイツ大会のオランダの第2戦、対スウェーデン戦を「予習」として観戦しながら過ごしている。私が持っていたVHSは徳田さんをお願いしてMP4に変換してもらった。オランダのゲームを安心して視聴できる環境がうれしい。

参加者には「お宝資料」が配布された(4~5ページに掲載)。

18:30 ごろ “定刻主義”で2時間の飲み放題開始。まずは乾杯。オーダーの仕方を学ぶ。

18:40 ごろ 全員そろったところで改めて乾杯。「予習映像」を止めて「お宝映像」へ。その前に自己紹介。初めて会う人が多かったが、みな「1974年のオランダ」にかなり期待しているのが感じられる。吉原さんが、この試合のメンバー表データをまとめ、オランダのTシャツを持参してくれた。14番を中心に渦巻きができてい柄はオランダのサッカーを見事に表現している。自己紹介の締めは、中塚と同学年=中学1年でこの試合に触れた鈴木さん。言いたいことは、互いに山ほどある。

19:05 ごろ 自己紹介を終えたところでいよいよ「お宝映像」の上映だが、その前に、12月5日に亡くなられた賀川浩さんを偲ぶ時間を設けた。10月14日の「賀川浩サッカー文庫10周年記念式典」で披露された賀川さんの「ラストメッセージ」映像をみて全員で黙とうをささげる。隣でやっていた別の忘年会が盛り上がっていて聞こえにくかったので、ラストメッセージはあとでもう一度流す。

19:10 ごろ オランダ vs ウルグアイ戦開始

ウルグアイの選手5~6人がオフサイドの罠にかかった場面が数回あり、巻き戻して確認しながら視聴した。2-0のオランダの勝利は世界のサッカーに衝撃を与え、いまのサッカーへとつながる。

21:15 ごろ 上映終了。改めて「賀川浩さんのメッセージ」を全員で視聴したのち中締め。
残れる人はそのまま残り、さらに熱く語る。

22:15 ごろ 2次会終了。解散。

2. 「お宝映像」について(中塚)

映像は1974~75年にみたもの^{注1)}ではなく、2006年ドイツ大会前後にフジテレビ(BSフジだったかもしれない)で放送されたものである。実況は倉敷保雄さん、解説は大住良之さん^{注2)}。

注1)「1974～75年にみたもの」とは、実況・金子勝彦、解説・岡野俊一郎の名コンビによる東京12チャンネル(現テレビ東京)の「ダイヤモンドサッカー」で放送されたものである(大阪で暮らしていた中1の私にとっては、サンテレビの「ワールドサッカー」という番組だった)。前後半を2週に分けて放送するもので、世界のサッカーを映像で知る唯一の機会であった。

注2)大住さんは10月14日の「賀川サッカー文庫10周年記念式典」で中塚の隣の席におられた。忘年会参加の鈴木崇正さんは、大住さんの著書を何冊も手がける編集者である。

欧州と南米の交流がほとんどなかったころのゲームである。

ウルグアイは4年前の1970年大会のベスト4。準決勝でペレのブラジルに敗れたが、小国なのにタレントを輩出し続けるサッカー界の古豪である。一方のオランダは、1934年のイタリア大会以来の出場。しかしクラブ単位ではアヤックスやフェイエノールトが欧州チャンピオンズ・カップやカップ・ウィナーズ・カップで優勝し、ヨハン・クライフの全盛期とも重なり、どんなサッカーをするか世界中が注目していた。その初戦である…ということは、すべてが終わったあとで知った。サッカーマガジンやイレブンに掲載されたジャーナリストの記事、大会後に全試合放送してくれた「ダイヤモンドサッカー」での岡野俊一郎さんの解説から学んだことである。

月刊誌だったサッカーマガジンに連載されていた賀川浩さんの

「ワールドカップの旅」シリーズは、毎回とても楽しみにしていた。試合そのものはもちろん、試合をする両チーム、試合会場となる都市の歴史や文化を伝えてくれた。牛木素吉郎さんや荒井義行さんの記事もむさぼるように読んだ。みなサロン2002ファミリーであったが、荒井さんも賀川さんも亡くなられた。

サロン2002 忘年会兼お宝映像上映会

2024/12/21 BRAS SERIE

1974 FIFA WORLD CUP 西ドイツ大会

1次リーグ 第3組

1974/6/15 ハノーファー 観衆：53,700
主審：パロタイ (ハンガリー)

	オランダ	②	1-0	⑩	ウルグアイ
			1-0		
得点	レップ	16'	1-0		
	レップ	86'	2-0		

ヨングブルード	8	GK	1	マズルケビッチ	
シュルピア	20	DF	2	ハウレギ	
ハーン	2		3	マスニク	
レイスベルヘン	17		4	フォルラン	
クロル	12		6	パボニ	
ヤンセン	6	MF	5	モンテロ	
ニースケンス	13		8	エスバリャゴ	
ファン・ハネヘム	3		10	ローチャ	
レップ	16	FW	18	マンテガッサ	
クライフ	14		7	クビジャ	
レンセンブリンク	15		19	(ミラール)	
			9	モレナ	
			警告	18	マンテガッサ
				4	フォルラン
				3	マスニク
			退場	5	モンテロ



資料提供：古原尊男

個人的には、中学1年の冬休みに700円で買った中条一雄さんの『おお！サッカー天国』がとても印象に残っている（忘年会に持参した）。

この日の配布資料は、表面が、吉原尊男さん提供のメンバー表とオランダのTシャツ写真、裏面が『おお！サッカー天国』からの引用である。

'74ワールドカップ競技場分布図

第1次リーグ

順(第1組) 東独 西独 テリ 豪 試 勝 分 敗 得:失 点

①東ドイツ	×	1-0	1-1	2-0	3	2	1	0	4:1	5
②西ドイツ	0-1	×	1-0	3-0	3	2	0	1	4:1	4
③テリ	1-1	0-1	×	0-0	3	0	2	1	1:2	2
④オーストラリア	0-2	0-3	0-0	×	3	0	1	2	0:5	1

順(第2組) ユー プラ スコ ザイ 試 勝 分 敗 得:失 点

①ユーゴ	×	0-0	1-1	9-0	3	1	2	0	10:1	4
②ブラジル	0-0	×	0-0	3-0	3	1	2	0	3:0	4
③スコットランド	1-1	0-0	×	2-0	3	1	2	0	3:1	4
④ザイール	0-9	0-3	0-2	×	3	0	0	3	0:14	0

順(第3組) オラ スウ ブル ウル 試 勝 分 敗 得:失 点

①オランダ	×	0-0	4-1	2-0	3	2	1	0	6:1	5
②スウェーデン	0-0	×	0-0	3-0	3	1	2	0	3:0	4
③ブルガリア	1-4	0-0	×	1-1	3	0	2	1	2:5	2
④ウルグアイ	0-2	0-3	1-1	×	3	0	1	2	1:6	1

順(第4組) ポー アル イタ ハイ 試 勝 分 敗 得:失 点

①ポーランド	×	3-2	2-1	7-0	3	3	0	0	12:3	6
②アルゼンチン	2-3	×	1-1	4-1	3	1	1	1	7:5	3
③イタリア	1-2	1-1	×	3-1	3	1	1	1	5:4	3
④ハイチ	0-7	1-4	1-3	×	3	0	0	3	2:14	0

おお、サッカー天国

昭和50年1月8日 第1刷
昭和50年1月16日 発行
検印廃止

著者 中条一雄
発行者 北村 靖
印刷者 株式会社 三秀舎
山岸 辰
東京都千代田区神田1-12-5
発行所 日刊スポーツ出版社の
東京都中央区新富2-8-2
報費 東京・96208・(電)553-0471

落丁・乱丁は本社でお取替いたします。紙本・村上製本

定価 700円
中学1年のときに中条購入

第2次リーグ

(A組)

順	オラ	ブラ	東独	アル	試	勝	分	敗	得:失	点
①オランダ	×	2-0	2-0	1-0	3	3	0	0	8:0	6
②ブラジル	0-2	×	1-0	2-1	3	2	0	1	3:3	4
③東ドイツ	0-2	0-1	×	1-1	3	0	1	2	1:4	1
④アルゼンチン	0-4	1-2	1-1	×	3	0	1	2	2:7	1

(B組)

順	西独	ポー	スウ	ハイ	試	勝	分	敗	得:失	点
①西ドイツ	×	1-0	4-2	2-0	3	3	0	0	7:2	6
②ポーランド	0-1	×	1-0	2-0	3	2	0	1	3:2	4
③スウェーデン	1-1	0-1	×	1-0	3	1	0	2	4:5	2
④ハイチ	0-2	1-2	1-2	×	3	0	0	3	2:6	0

◇決勝戦
7月7日(ミュンヘン7万8000人)
西ドイツ 2 (2-1) 1 オランダ
得点者 西ドイツ=フライトナー(PK5分)
ミラー(43分) オランダ=ニースケン
(PK5分)

Ⅲ. 参加者からのコメント（投稿順。1/8締切⇒1/22まで延長）

◆中塚義実（NPOサロン2002理事長／筑波大学附属高校教諭） <12月29日>

この試合をみながら、いろんなことを思い出していた。大阪万博のあった1970年、小3の夏に大阪府茨木市に引っ越してきたころ、組織的な少年サッカーは（たぶん）なかった。というより、小学生が「組織」に属して放課後や休日を過ごすことはなかった（そろばん塾に通う子どもはいた）。毎日が外遊び。スポーツ遊びもたくさんやった。野球（ごっこ）が多かったが、サッカー好きの私はよく友だちとサッカー遊びをやっていた。「中塚と遊ぶと基地づくりとサッカーにつきあわされる」と言われていたようだ。サッカー好きなのは父親の影響もあっただろう。

中1になって茨木市立南中学サッカー部に入る。サッカー三昧の日々は1974年にはじまった。「お宝映像」の1974年は私にとってそのようなときである。7月7日の決勝戦は生放送されたが、私は知らない。自分のプレーにしか関心がなかったようだ。

8月末だったと思う。近所の本屋に行ってみると、サッカーマガジンとイレブンの「ワールドカップ特集号」が積みあがっている。サッカーの本が店頭には居並ぶなんて珍しい。手に取ってみたのが、世界のサッカーとの最初の遭遇である。選手がメチャクチャかっこいい！そして、毎週火曜日（月曜日だったかも）の夜10時から「ワールドサッカー」という番組があるのを知った。

はじめて見たのはブラジルvsユーゴスラビア。無得点に終わった試合だが、カラー映像でみる世界のサッカーは、うまくて速くて激しくて、自分がまったく知らない世界だった。そもそも芝生が緑で、その上でサッカーをやっている。当時の日本では芝生は観賞用である。ピッチ（という言葉も知らなかった）の周りの広告にも驚いた。日本のスポーツ界はアマチュアリズムに支配されていた。

毎週この番組を全力観戦し続けたのは言うまでもない。映像を録画することはできなかったが、音声は録音できる。番組始まりの音楽から金子アナウンサーが両チームの選手名を読み上げるところまで毎試合録音し、英会話の勉強のように、あとで選手名を繰り返し唱えることをしていた。いまでも「ハンス・ゲオルグ・シュバルツェンベック」というような名前がすらすら出てくる。

こんなことを思い出しながら見られたのが、先日のお宝映像である。

何度か「忘年会兼お宝映像上映会」をやってきたが、ようやく原点ともいえる1974年大会を、そしてオランダを取り上げられたことがうれしい。

当時の中学生の間では、オランダびいきと西ドイツびいきに分かれていた。私は西ドイツ派である。ベッケンバウアーの優雅なプレー、左足一本のオペラーツ、スピードドリブルのヘーネス、どんな体勢からでもゴールを上げるゲルト・ミュラー…。1975年1月にバイエルン・ミュンヘンが来日したときには大阪から上京し、寒い国立競技場で興奮してみていたのを思い出す。はじめた買ったサッカーシューズは「モデルバイエルン」。それが破れて次に買ったのが「スターオペラーツ」である。

このときのオランダのサッカーが、のちに世界の戦術家が追及する一つのスタイルとなっていく。1974年のオランダは、その意味からも必見である。

だいぶ後になるが（と言ってもJリーグ開幕前）、1989年のトヨタカップはACミランとナショナル・メデリンの対戦だった。私はJFA科学研究委員会の仕事で、国立競技場最上段のブース席でゲーム分析のお手伝いをしながら観戦していた。ボールに触れた選手の番号を言い続ける仕事である。私はメデリンの担当で、注目されていたACミランが担当できず残念だった。ところが、きわめてモダンなプレッシングサッカーをするのはACミランだけではなかった。コロンビアから来たチームもきわめてモダン。双方が1974年のオランダが志向したようなスタイルである。キックオフのとき、両チームのフィールドプレーヤー20人がセンターサークル周辺に集まっているのを見てびっくりした。「もっと広まれ！」と言われ続けていたのが自分の体験してきたサッカーであるが、世界のトップは、やったらアカンと言われていたのをやっている。両チームが究極のプレッシングをやろうとするとこうなるのだというのを目の当たりにした…。

そんなことをいろいろ思い出しながらの「お宝映像上映会」であった。またやりたい。

◆森田真陽 <1月15日>

初めて会に参加させていただきました。お宝映像の内容の前に、さまざまなバックグラウンドの方とサッカーの話ができたことが非常に面白く、有意義でした。

お宝映像に関しては、私が生まれる前の映像でしたが、唯一左サイドでクライフがクライフターンで抜き去る場面だけは見たことがあり、幼い頃からスポーツ番組などでよく見ていたクライフのターンが試合の中に出てきて感銘を受けました。

また、会場でも1番の盛り上がりを見せたのは嵐のようなオランダのオフサイドトラップでした。あんなにハイラインで大丈夫なの？ 2枚目、3枚目の選手がでてきてすぐ攻略されそうだと思って見ていましたが、意外と攻略できないものなのですね。

試合以外では吉原さんが持ってこられていたトータルフットボールを表したTシャツが印象的でした。デザインもサッカーの内容をシンプルに表していて、これも「お宝」だと思いました。

非常に内容の濃い会に参加させていただき、ありがとうございました。

◆奥山純一 <1月22日>

実質的なオフサイドトラップという戦術が生まれた瞬間を見れたのは面白かったです。

数人が引っかかるのではなく、半数近くの選手が引っかかっているのは発明の瞬間って感じでした。しかも複数回。

監督が戦術を授け、また、DFでないプレーヤーがキーマンとして忠実に実行したことで引き立ったというのは、何かが生まれる瞬間の必然のように思いました。

今コメントをまとめて思ったのですが、改めて私は「駆け引きや騙し合い、想像の外側」が起こる瞬間に魅力を感じるのだと再確認しました。最近色々言われていますが、多分過渡期のようなもので、きっとまた華々しいサッカーが今後も魅了してくれるものと信じてます。

◆吉原尊男 <1月22日>

W杯西ドイツ大会は初めて決勝を東京12チャンネル（現テレビ東京）が生放送し、大会終了後、前後半が2週にわたって放映され、また世界のスーパースターをじっくり見られたこともあり非常に思い出深い。

大会の優勝国を占うほかに、ペレが去ったW杯で誰が次の王様になるのかは大きな関心事だった。

そんななかトータルフットボールという画期的なサッカーを披露したオランダの快進撃の初戦となったオランダ VS ウルグアイの試合内容は、正直言ってそれほど覚えていなかった。当時サッカーマガジンの情報では、前回4位のウルグアイも強豪と紹介されていたが、オランダの新しいサッカーの引き立て役でしかなかった。

さて50年経ってあらためて振り返ると、やはりクライフあつてのトータルフットボールなんだなと。オランダは4年後のアルゼンチン大会でも決勝に進んだが、やはりクライフ抜きではまたしても優勝には届かなかった。

ちなみに、監督のリヌス・ミケルスがフリット、ファンバステン、ライカールトの三銃士を擁して栄冠を勝ち取ったのは1988年の欧州選手権（今ではユーロと呼ぶのか）で、その時のオランダも好チームだったが、クライフはいなかった。（当たり前か）

こういう古き良き時代のサッカーが懐かしいと思うのは年老いた証拠かな（笑）